

マレーシア ロングステイと人とのふれあい

吉海慶三（練馬区）

期間：2007年1月8日～2月27日（50日間）

昨年に続きマレーシアにロングステイしたが、その間、いろいろな人とのふれあいとその一期一会に感謝する素晴らしい滞在であった。

1. 発端

いつか一度、時間や行動に束縛されず「思うままにゆっくりと時の流れに身を任す」、私にとってはいわゆる贅沢な旅をしたいものと思っていたところ、昨年2カ月間コタキナバルでまさに望みどおりの滞在をする機会に恵まれ、心から満足して帰国した。

その後、今年も昨年の宿舎が利用できるとの情報を得て、近所の友人でWSC会員の本杉氏ご夫妻に声をかけたところ一も二もなく賛同を得て、同行が適った次第である。

2. コタキナバルへ

旅はいつでもそうだが、行き先と目的を定めた後、出発までの準備の過程がまた楽しい。本杉氏ご夫妻とも、お互いの家で或いはレストランで数回のミーティングを重ね、旅程を絞り、出発の3カ月前に航空券入手するに到って気持ちは益々高揚していった。

いまだ正月気分が覚めやらぬ1月8日夜、祝事を控えた本杉氏ご夫妻より一足先に家内とコタキナバル空港に降り立った。空港を一步出ると亜熱帯特有の暖い夜風が身を包み、昨年、元旦にこの年になって初めてTシャツに短パンでお雑煮を食べた思い出が昨日のように蘇る。

宿舎は、日本語ボランティアが契約しているコンドミニアムを授業がない間借用させて頂いた。翌日から懐かしい市内を散策したが、いたるところで私共を覚えていてくれる現地の人に笑顔で声をかけられ、嬉しかった。

10日間が過ぎ、待ちに待った本杉氏ご夫妻が到着した。ご両人は以前私が日本語ボランティアをしていた際にWSCの旅でサバ州各地を訪れた事があり、2度目の思い出の地でもあった。

4人揃うと、まるで花が咲いたようで楽しい生活が始まった。本杉氏は俳句に造詣が深く、一方奥様は英会話の宿題と刺繍を携行され、それぞれ自分の趣味に合わせ束縛されない時間を楽しむ一方、4人揃うと宿舎のジムやプール、そしてエステや散策、ある日はマヌカン島で五色の魚と戯れる等、ゆったりと自由気ま

まな生活を満喫した。

食事は朝食を除き、周りにオープンエアのレストランやフードコートがあるため、主婦としての炊事からは開放された毎日であった。特に夕食は、マレーシア、中華、インド、タイ、イタリアなどの各国料理を賞味して歩き、ある日はウォーターフロントで南シナ海に沈み行く真紅の夕日を彼方に、頬を夜風に打たれながらシーフード料理等を時間をかけて堪能した。本杉夫人与家内が、その都度もらした「美味しいね！」の笑顔が目につかぶ。

約1カ月のコタキナバル滞在中、いろいろな人との出会いがあったが、家主・氏原氏のご夫人には生活相談はもちろん、リゾートホテルの案内、日曜日は教会で熱気溢れるゴスペルや参集者とのふれあい、そして台湾料理の名店へご招待頂く等、大変お世話になった。また、日本語学校を経営する長谷川氏宅では、昨年未生れた長男の生誕1カ月祝いがあり、30数人に祝福される大パーティの雰囲気を経験した。

このほか、昨年クアラルンプールで偶然出会い、その後WSCに入会された竹之下さんがロングステイの下見に来られ、近くのホテルに滞在され楽しく交流した。また、彼女を空港で待つ間、偶然にも家内の同級生で長年クアラルンプールでゴルフ場を営んでいるという坂元氏に出会い、クアラルンプールでの再会を約して別れた。

圧巻は、マレーシア建国50周年に併せ市制17周年を祝う大祝典が宿舎前にステージを設けて、各国の民族舞踊・歌謡・電飾に飾れた山車と軍隊の大パレード・満天に打ち上げられる花火大会が深更まで行われ、これも氏原夫人のご好意でステージを眼下に見下ろす部屋でビール片手に楽しみ、このような節目に居合わせたことを感謝した。

3. クアラルンプールからペナンへ

2月8日、椰子林の広がるクアラルンプール空港に到着した。当地は、次のペナンの後再度滞在するため、先ずは地の利を得ることに主眼を置いた。宿はペナンを含め、全て朝食付きのホテルを日本で予約して、繁華街のブキッピンタンにとり、市街を南北に縦断するモノレールで、高層ビルの林立する市街中心部を掌握した。

ペナンへの移動手段であるが、予め航空機、列車、バス等を調べていたが、ナイスバスという4時間半で

行けるバスがあるということを知り、これで行く事にした。このバスのことは、本年度の旅行誌にも出ていないが、その名のとおり1列3席のゆったりしたシートで、移動間飲み物、軽食もサービスされる4時間半の、その名のとおりナイスな旅であった。

5. ペナン

初めての訪問地であり、本杉氏が丹念な事前調査の上、タンジュンブンガとバトウフェリンギ2カ所のリゾート地のホテルを日本で予約された。「東洋の真珠」と称せられるとおり、島の北部には白い砂浜のビーチリゾートが点在し、ホテルのプールサイドで体を焼き或いは泳ぐ白人の客は、英国をはじめ北欧・豪州からの観光客であり、躊躇しない限り無料の英会話の実践には事欠かない。

到着後早速、本杉さんの旧友の杉山氏にお世話になった。ペナンが好きで2年間滞在するというご夫妻は車で出迎えてくださり、ジョージタウンをはじめ景勝地や地元の人たちで賑わう美味しい屋台等を案内して頂き、プールやジム併設のお宅にもご招待頂いた。

約10日間、陽光まぶしいプールサイドでの水泳、砂浜の散歩等で命の洗濯をした。



ホテルのプール (ペナン)

6. クアラルンプール

ペナンで身も心もゆっくりした後、再びクアラルンプールに到着した。ここでもいろいろな日本人との出会いがあった。

ホテルに到着して、前述の家内の同級生坂元氏に電話すると、早速翌日迎えに来てくれるとのことであった。翌朝、ホテルに迎えに来てくれた氏に案内され、ダウンタウン・王宮・政府や行政の中心地として新たに造成された人口20万人の新都市プトラジャヤ、日本人クラブ、そして氏の経営する広大なゴルフ場、午後は氏の運転手の案内で東南アジア最大の規模を誇るというバード・パークでホーンビルをはじめ放し飼いの珍鳥を、鳥や蝶の大好きな本杉氏の解説つきで鑑賞した。夜は、中国の旧正月で雑踏する中華料理屋に招待され、氏の持参した薩摩焼酎とともに舌鼓を打った。

また、氏は地元で長年にわたり柔道を教えている功績で国王の叙勲も頂いたそうで、その人徳に感服した。



バードパークの放し飼いのインコ (クアラルンプール)

翌日は、氏の紹介で不動産屋を営む柿木田氏を紹介して頂き、日本人のロングステイの実情や27階建てのコンドの間取り、併設する地下の大モールなどを見せて頂いた。特に、日本人会として「お助けマンクラブ」と称し日本人の旅行者に対し24時間、交通・医療・買い物・緊急時の相談にあたる幹事を定めていることを知り、異国で団結し、日本人の旅行者にボランティアで支援にあたる姿に頭が下がった。ここで得たノウハウについて情報を得たい方には喜んで提供したい。

翌日からはペトロナス・ツインタワーをはじめとするショッピング街の散策について廻ることになったが、いろいろな場を捉え、実践英会話にトライしては身に付けていく本杉夫人のひたむきな姿は、今思い出しても微笑ましく頼もしいことこの上ない。

7. 最後に

いろいろな人と巡りあい、かつお世話になった旅であったが、滞在3カ所の所見を一言でいえば、コタキナバルは小さな島が浮かぶ南シナ海や熱帯雨林に恵まれた発展途上の地、ペナンは英国統治の面影を残す格好のリゾート地で、欲を言えば、海がもっと綺麗であればいいことはない。一方、クアラルンプールは発展目覚ましい近代都市で緑も多く、日本からの直行便も毎日あり、ここを拠点に両地区にも行ける至便の地で、また、世界のブランド品も広大なモールに揃い、ショッピングには最適といえようか。

最後になったが、今回の旅は最後の最後まで何一つ齟齬なく安心できる旅であった。4人で成田に降り立ち旅を振り返ってこの件に話が及ぶと、本杉氏が「事前に十二分に調査し、しっかりと段取りしたから」と言われ嬉しかった。まあ、天の助けと本杉氏ご夫妻という無二の同行者に恵まれたからと感謝している。